

原稿書くためにまじめに学習しました

毛馬の閘門

ふちんかん

与謝蕪村の出身地として有名な毛馬。与謝蕪村が生まれた頃は、大川（淀川）はここから大きく南下し、大和川と合流し、大坂の町の八百八橋をくぐり抜け、湾に流れ込んでいた。

その後、大和川は氾濫防止と新田開発のため、現在の位置に付け替えられた。

しかし水量が減ったとはいえ何度も大洪水を起こした淀川は、明治40年、現在の淀川へ付け替えられた。新淀川と大川（旧淀川）の分岐点が毛馬である。



毛馬の4施設

[1] 淀川大堰（淀川）

明治の改修工事で新淀川の長柄に堰を設置した。これは淀川に一定の水量を確保し大川へ流すためである。淀川大堰はその機能を継承し、上水道場の塩害防止や都市用水を確保するため1983年に完成した。



[2] 洗堰（水門）

大川へ流れる水量を調節するための施設。1910(明治 43)年に完成・現在のものは1974年に完成。

[3] 排水機場

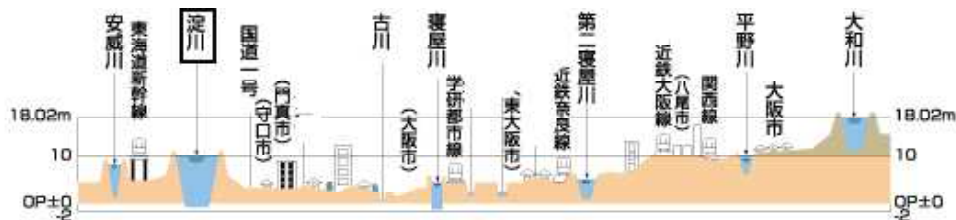
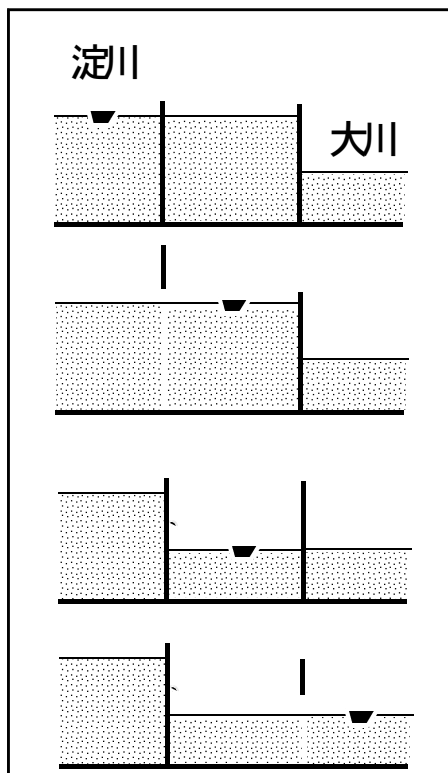
一般に淀川より水位の低い大川だが、台風などの際は周辺から流れ込む水によって水位が高くなることもある。そうなると大阪市内が洪水となるおそれがある。大川の水を吸い上げ淀川へ流すための施設が排水機場である。

[4] 閘門

大堰によって水位が高く保たれている淀川に対し、大川は潮位の影響もあり水位が変化する。この水位差を調整し、船が往来できるようにする施設が閘門である。第1閘門は洗堰と同時期に築造された(1907年)。第二閘門は淀川左岸に沿うようにあった長柄運河のために設置されたもの。

現在の閘門は1976年に完成した。淀川大堰設置によって第1閘門が大堰よりも下流になってしまうことから大堰よりも上流である現在の位置に設置したものと考えられる。

閘門は、約30分で水位を調整できるようになっていて、現在一日あたり10～15隻程度が利用している。



大阪平野の横断面図（淀川や大和川の水位が高いことが分かりますなあ）